

# 3 成 果 発 表



# 薬物乱用防止高校生会議成果発表

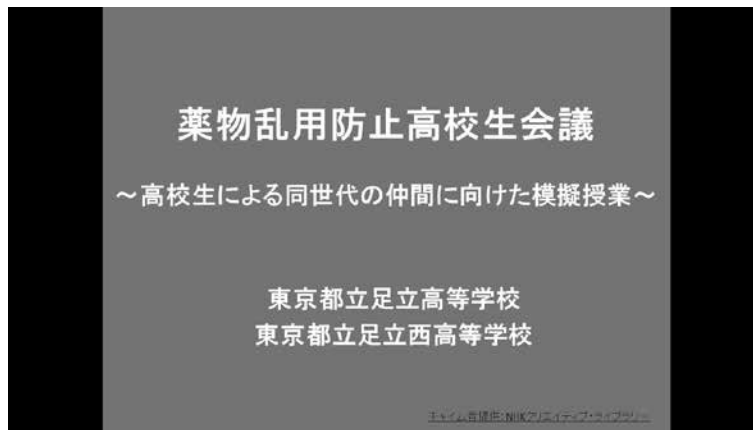
平成28年11月27日（日曜日）、都民ホールにおいて開催された「平成28年度麻薬・覚醒剤乱用防止運動東京大会」におきまして活動成果発表を行いました。

今年度は、都立足立高等学校、都立足立西高等学校の両校合同による「同世代に向けた模擬授業」を発表しました。生徒達で考案した「危ない誘惑！断る勇気！Stop Drug！」をテーマに、授業内容や使用する映写スライドは両校の生徒達で作成し、同世代に向けて薬物乱用防止の強いメッセージを発信しました。

以下、活動成果発表を掲載いたします。



東京都立足立高等学校  
東京都立足立西高等学校  
活動成果発表資料  
(模擬授業台本)



(チャイムがなる)

生徒：「気をつけ、礼、着席」

教師：「出席をとります。  
全員いますか。  
今日はまず、この写真を見てください。」



教師：「何に見えますか？」

生徒：「ガム」

生徒：「ラムネ」

生徒：「香水」

生徒：「アロマ」

生徒：「左がMDMAで右が危険ドラッグです。」

教師：「何で知っているのかな？さては…？」

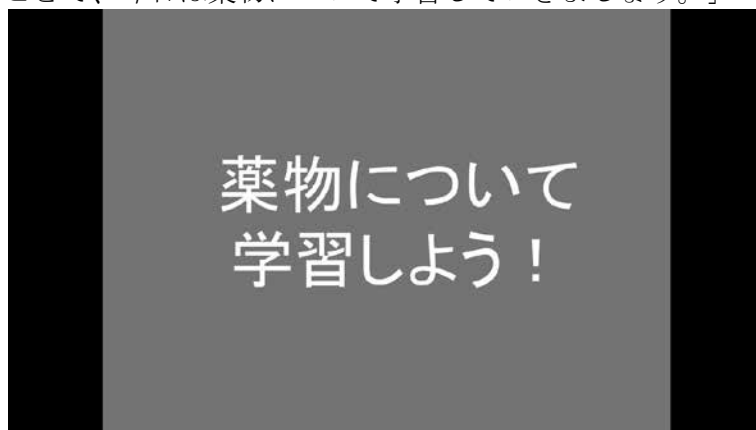
生徒：「テレビで見たことがあります。」

教師：「そうか、それなら良かった。  
そうです。  
これは違法薬物である左がMDMA、右が危険ドラッグです。」

生徒：「左の写真はスーパーやコンビニで売られているお菓子みたい。」

生徒：「違法薬物って知らなかったら使っちゃいそう。」

教師：「そうだね。  
最近では、違法薬物に見えないようにオシャレなパッケージの物も出回っています。  
ということで、今日は薬物について学習していきましょう。」



教師：「まず、薬物で知っているものを挙げてみてください。」

生徒：「覚醒剤」



生徒：「大麻」



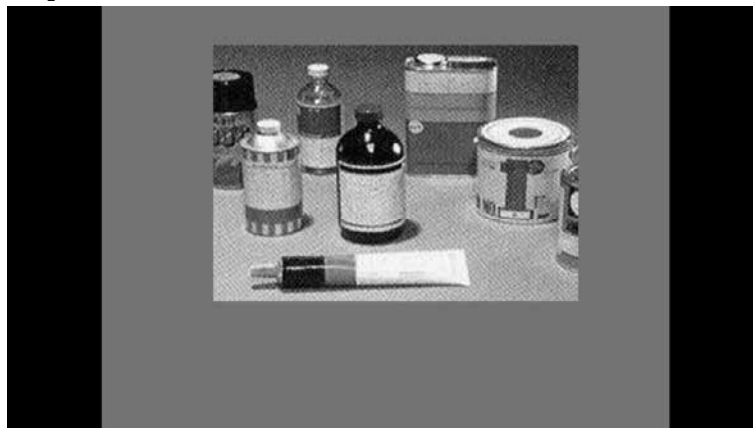
生徒：「コカイン」



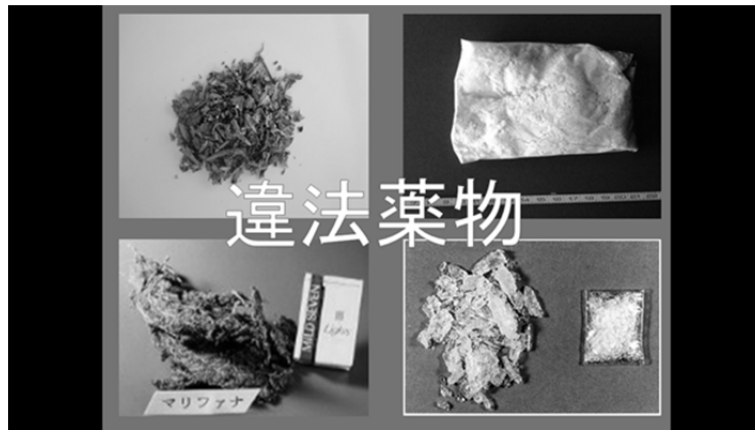
生徒：「脱法ハーブ」



生徒：「シンナー」

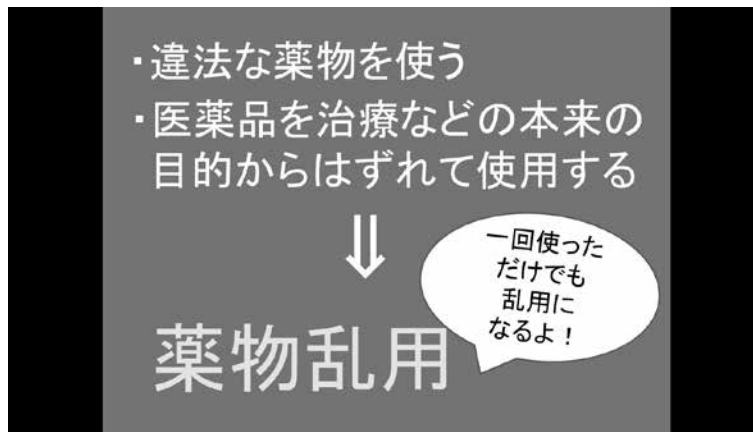


教師：「みんなよく知っているね。  
みんなが答えてくれたもので、覚醒剤、大麻、コカイン、MDMA、  
そして今は脱法ハーブとは言わず危険ドラッグ。  
これらは、法律で所持や使用等が禁止されている違法薬物です。」



- 教師：「それでは、ここで質問です。  
先ほど答えにあったシンナーだけど、ホームセンターで塗料やペンキなどを薄めるシンナーが売られています。  
これは違法じゃないのかな？  
スーパーでも『ハーブティー』として、ハーブが売られているけれど、みんなが言っている危険ドラッグのハーブとは何が違うかな？」
- 生徒：「確かに普通に売られているけれど…」
- 生徒：「シンナーは飲み物じゃないからいいんじゃない？」
- 生徒：「でもシンナーの臭いって頭が痛くなるよね。」
- 生徒：「ハーブは何がいけないのだろう？」
- 生徒：「使い方が問題なのではないのかな～？」
- 教師：「良いところに気が付きました。  
そもそも薬物とは何でしょうか。  
風邪薬や頭痛薬も広い意味での薬物です。  
一般的には医薬品という呼び方で使われています。  
違法な薬物を使用したり、医薬品を治療などの本来の目的からはずれて使用すること、つまり薬物を乱用することが問題なのです。  
これを薬物乱用といいます。  
1回使っただけでも乱用なのです。  
薬物を乱用すると、体や脳に悪影響を及ぼし、薬物依存に陥ることもある。  
だから、法律で厳しく規制されているのです。」





教師：「シンナーも本来の目的から外れて吸引することが問題で、ペンキを薄めるために使うことは問題ではないよね。  
ただ、換気状態や誤った使い方によってはシンナーを吸ってしまうので気をつけないといけないね。」

生徒：「だから密室の空間でペンキを使うと頭が痛くなったりするのかな。」

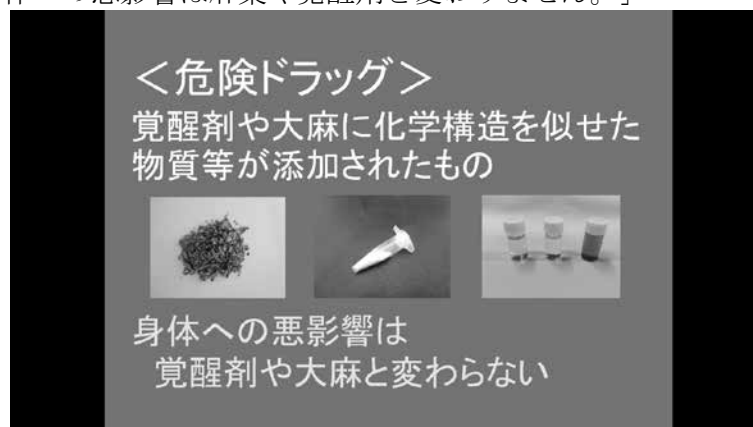
生徒：「危険ドラッグのハーブはどうしていけないのですか？」

教師：「危険ドラッグと呼ばれているハーブは、そもそもハーブティーのハーブとは違う物なのです。」

生徒：「そっか、ハーブティーのハーブは炙ったりしないよね。」

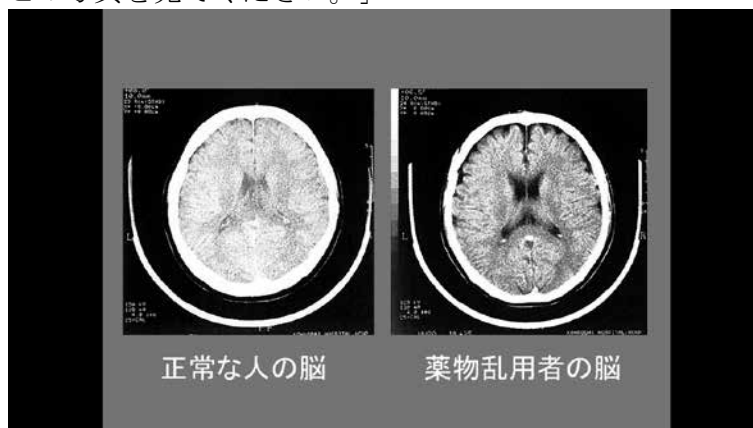
生徒：「でもなんで違法なのですか？」

教師：「使うと体に害を与えるから違法なのです。  
いわゆる危険ドラッグは、覚醒剤や大麻に化学構造を似せた物質などが添加された物で、体への悪影響は麻薬や覚醒剤と変わりません。」



教師：「だから、危険ドラッグを使うと、意識を失ったり別の犯罪を犯したり、最悪、死に至ることもあるのです。  
そして、覚醒剤や大麻、危険ドラッグなどの違法薬物、薬物乱用が法律で厳しく規制されている理由は、自分の意志では止められなくなるほど強い依存性があり、脳をおかされて心も体もめちゃくちゃになったり、また、薬物を乱用することにより、幻覚や妄想が現れ、凶悪な事件を起こしたりと、健康に悪影響を与え、周りの社会にも計り知れない害をもたらすからなのです。」

教師：「次に、この写真を見てください。」



生徒：「右側の脳がスカスカ。」

生徒：「正常な人の脳と全然違う。」

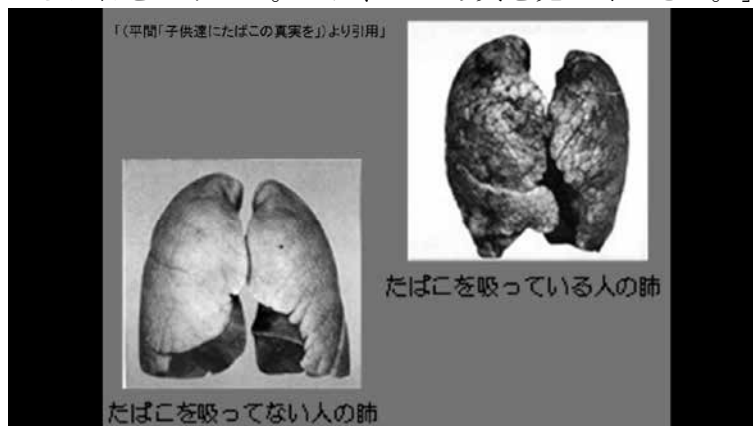
生徒：「こわいね。」

生徒：「こんなにも変わっちゃうの？」

教師：「薬物を乱用すると脳の神経細胞が破壊されて、脳が委縮するのです。一度壊れた脳は、決して元の状態には戻らないのです。また、脳だけではなく、腎臓などの内臓器官にも悪影響が出るなど体に害を与えるのです。恐ろしいよね。」

生徒：「先生、タバコも体に影響を与えるけど、なぜ違法じゃないのですか？」

教師：「良いところに目をつけたね。では、この写真を見てください。」



生徒：「肺が真っ黒、汚い～。」

教師：「写真を見ても分かるようにタバコも体に影響を及ぼしているね。  
では薬物とタバコの違いはなんだろう？」

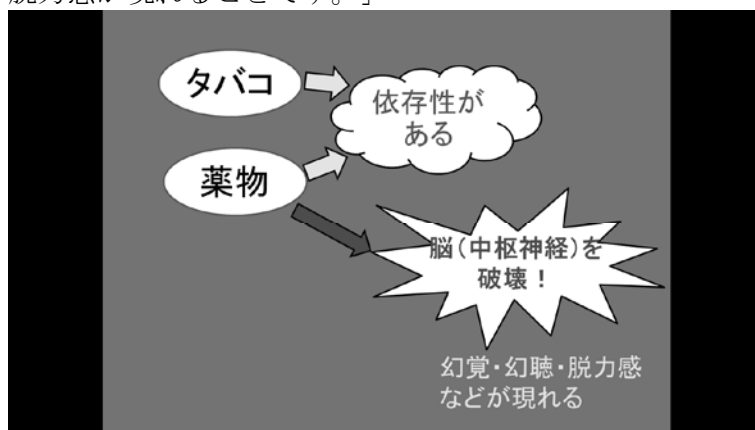
生徒：「タバコから出る煙は周りの人にも影響を与えるから薬物よりいけないと思う。」

生徒：「体にも悪いしね。」

生徒：「でも大人がタバコを吸うのは違法じゃないよね。」

生徒：「体を与える影響に違いがあるからではないのかな。」

教師：「みなさん、素晴らしいですね！  
もう一つ勉強しましょう。  
タバコも薬物も依存性があります。  
特にタバコのニコチンも依存性が非常に高いと言われています。  
ここまでは薬物と同じですが、一番の大きな違いは、薬物を乱用すると、幻覚や幻聴、脱力感が現れることです。」



教師：「タバコは依存性が高いですが、幻覚などの作用はありません。  
しかし、禁止されている薬物ではそれらの作用が襲ってきます。  
これは、先ほど見た脳の写真のとおり、乱用される薬物は、私たちの一番大切な脳、中枢神経を破壊するのです。  
そして、脳が壊れると神経に障害が出て、幻覚などが現れます。  
聞いた話によると、薬物の効き目が切れたときは歩くことができないくらいの脱力感に襲われるそうです。」

教師：「また、後ろから包丁を持った人に追われるなどの幻覚や、聞こえもしない叫び声が聞こえるなどの幻聴も現れてしまうのが、薬物の恐ろしさなのです。」

生徒：「それは怖い。」

生徒：「歩けないぐらいの脱力感はやばいでしょ～。」

生徒：「幻覚が見えたり幻聴が聞こえたりしたら精神状態が不安定になるよ。」

生徒：「だからテレビや新聞で薬物関連の事件も多いのかー。」

生徒：「芸能人の薬物事件はテレビや新聞で大きく報道されているよね。」

生徒：「薬物に一度、手を染めてしまうとやめられなくなるのですか？」

教師：「一度、薬物を使用してしまうと幻覚や幻聴、脱力感に襲われ、それを取り除くために、また薬物を使用してしまう。

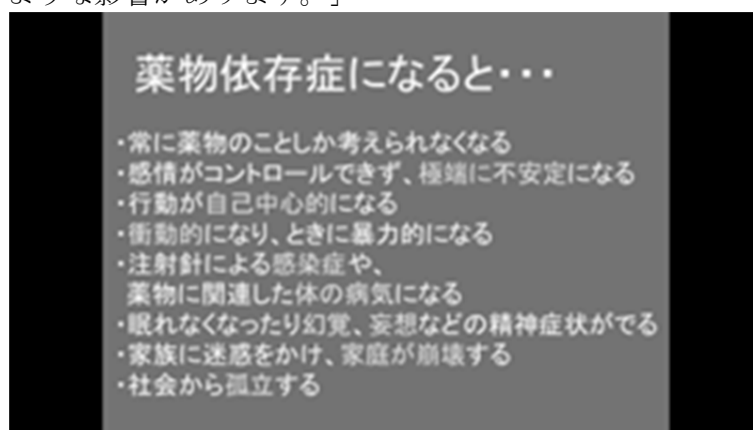
それを繰り返しているうちに、現在使用している薬物では効果がなくなり、さらに強い薬物に手を出したり、一回に使用する量を多くしたりして、薬物依存症になっていってしまうケースが非常に多いのです。最悪の場合は命を落とす原因にもなる大変恐ろしいものなのです。だから薬物に一度でも手を染めることがあっては絶対に・・・」

生徒：「ダメよーダメダメ〜！」

教師：「それ、日本エレキテル連合のネタじゃないか。ちょっとふざけちゃったけど本当に一度たりとも絶対にダメなのです。」

教師：「薬物依存症になるとどのような影響があるかというと、

- ・常に薬物のことしか考えられなくなる。
  - ・感情がコントロールできず極端に不安定になる。
  - ・嘘をついたり約束を守れなくなったりと行動が自己中心的になる。
  - ・衝動的になり、ときに暴力的になる。
  - ・注射針による感染症や薬物に関連した体の病気になる。
  - ・眠れなくなったり、幻覚、さらには誰かに追われていると感じたり、誰かに殺されるかもしれないと思ってしまうたり、妄想という精神症状が出る。
  - ・家族に迷惑を掛け、家庭が崩壊する。
  - ・最終的に社会から孤立する。
- というような影響があります。」



教師：「1回でも薬物を経験した人は、脳に薬物を求める仕組みが出来て一生その脳の仕組みを持ち続けます。」

教師：「そして、たとえ10年間やめていても、もう一度使うと、またリセットされて使い続けてしまいさらに進行してしまうのです。だから、薬物は絶対に一度でも使ってはダメなのです。」

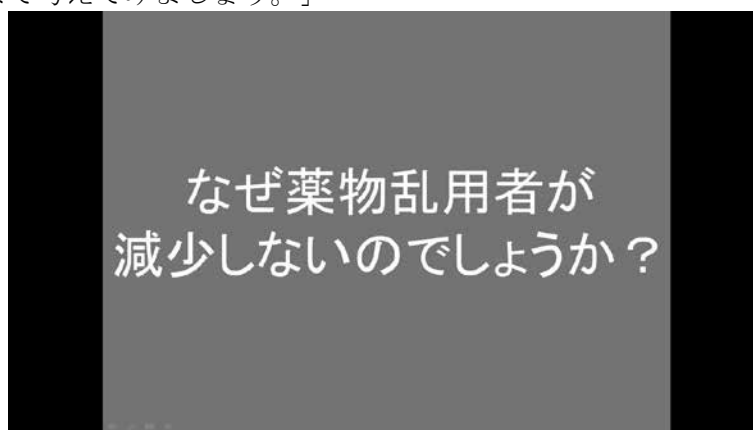
生徒：「薬物って怖い。」

生徒：「タバコと薬物はともに体に影響があるけど幻覚、幻聴が現れるかは大きな違いだね。」

生徒：「でもなんで体に悪いって分かっているのに薬物を乱用する人が後を絶たないのですか？」

教師：「良い学習ができていますね。」

教師：「では、薬物に手を出す人が減少しないのはなぜでしょうか？  
みんなで考えてみましょう。」



生徒：「好奇心じゃない？」

生徒：「友だちに誘われてつい…。」

教師：「すぐに止められるだろうって思ってしまい、好奇心に負けたり、つい手を出してしまったりする人もいるかもしれませんね。」

生徒：「やせるって言われてやってしまうとか。」

生徒：「あと、元気になれるとか眠くならないよ、とか言われて手を出してしまう人がいそう。」

教師：「その人の弱みに付け込んだり、一見魅力的なことを言って薬物に手を出しやすくしようとしているかもしれませんね。」

生徒：「薬物だと分からなくて使っちゃう場合もあると思います。」

教師：「確かに分かりにくいパッケージの物もあるから、自覚がないうちに……ということもありそうだね。」

生徒：「ストレスが関係しているのではないのでしょうか？」

教師：「ストレス社会なんて言われているからね。  
誰だってストレスがたまってイライラしたり、不安になったりすることあるよね？  
でも、みんながみんな、薬物に手を出すわけではない。  
それはどうしてなのだろう？  
何が違うのだろう？」

生徒：「熱中できるものがあるか、ないかの違いじゃないかな。」

生徒：「ぼくはストレスを発散する方法があるか、ないかだと思います。」

教師：「そうだね。  
自分なりの発散方法があると、薬物に手を出そうとすることもないかもしれないね。」

生徒：「でも、薬物なんてそうそう身近にないから、それでストレス発散しようと思わないよ。」

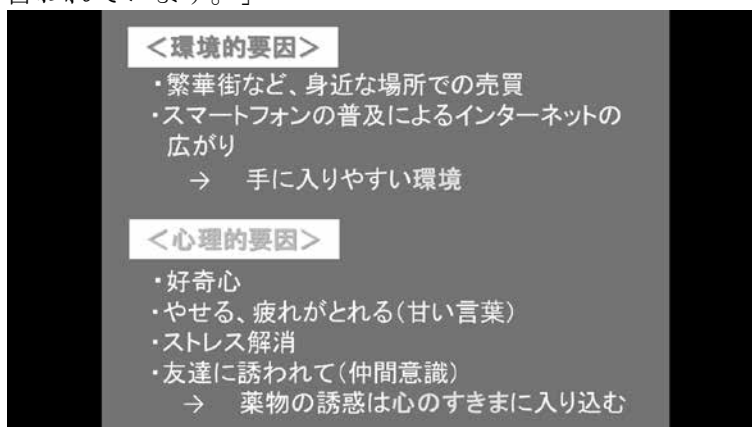
生徒：「そうかな？  
街中で誘われたりすることがあるって聞くよ。」

生徒：「怪しげなサイトとかもあるって聞くしね。」

教師：「確かに、自分が少し弱っていたり悩んでいたりと…  
そんなときに誘われたり楽になれるよとか言われたりしたら、つい手を出してしまうかもしれないよね。」



教師：「みんなが発表してくれたように薬物を使用するきっかけは、大きく分けて2つあると言われています。」



教師：「1つは、環境的要因です。  
繁華街で売られていたり、スマートフォンの普及によるインターネットの広がりなどにより、手に入りやすくなっていると言われています。  
そして、もう1つの大きな要因は、心理的要因です。  
好奇心だったり、やせるとか疲れが取れると言った甘い言葉に騙されたり、ストレス解消だったり、友達から誘われたとき、自分一人やらないと仲間外れにされるといった仲間意識だったり、違法薬物への誘惑は様々な形で心のすきまに入り込んでいきます。」

教師：「最近のニュースでも、みんなと同世代の高校生が大麻や覚醒剤を持っていたという事件が報道されています。  
違法薬物は、みんなが思っているより身近に迫ってきているのです。」

教師：「薬物に手を出さないためにも、違法薬物を誘われたときのことを考えておく必要があります。」

教師：「それでは、今から誘われている様子を先生たちがやってみるので聞いてください。」



**A…誘う役**    **B…誘われる役**

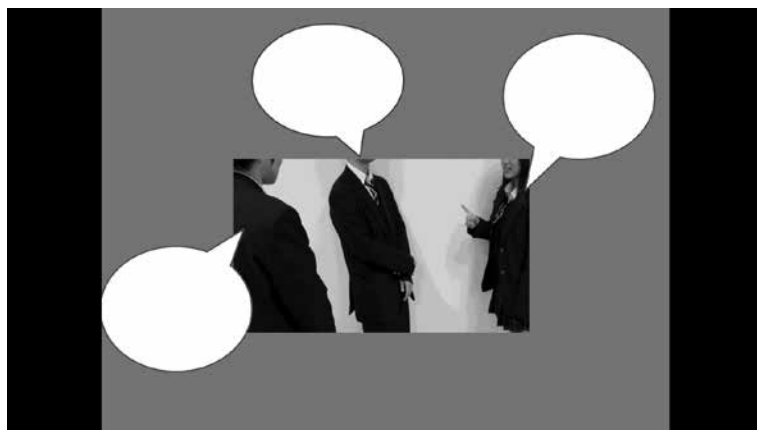
- A : 「ねえねえ ちょっといいものあるけれど、見てみない？  
すごく楽しい気分になる薬だよ。ちょっと時間ないかな？」  
B : 「えっ…あ、いや、その…」  
A : 「ちょっとだけだからさ。無理に何か買わせたりしないから大丈夫。」  
B : 「えっと…でも…」  
A : 「じゃあ、ちょっとだけ！いいよね！すぐそこだから。」

教師：「では、みんながこのように誘われる立場だったらどうしますか？」

生徒：「はっきり断る！」

生徒：「真剣な態度で、私はやりません、って言う！」

教師：「いいね。  
ではちょっと実際に断る場面をやってみよう！  
二人は前に出てきてください。」  
(生徒役二人がマイクを持って舞台前方に出る。)



**A、B…誘う役 C、D…誘われる役**

A : 「ねえねえ ちょっといいものあるのだけど、見てみない？」

B : 「何か買わせたりしないよ、大丈夫。」

C : 「見ません！」

A : 「時間ないかな？」

B : 「嫌なこともすっかり忘れられちゃう薬だよ。」

C : 「僕はやりません！」

D : 「私もです！」

教師 : 「二人ともありがとう、とても良く出来ていました！」  
(全員拍手)

教師 : 「他にどんな断り方があるかな？」

生徒 : 「逃げる、のもありだと思います。」

生徒 : 「携帯電話が鳴ってきた振りをして逃げる。」

生徒 : 「そこで親と待ち合わせしています、と嘘をつく。」

生徒 : 「そばにいる人に助けを求める。」

生徒 : 「交番に行く。」

教師 : 「断り方は人それぞれ違いますよね。  
誘われた時のしっかりとした断り方を考えておくと、急に誘われても対応しやすくなります。  
逃げる場合は、明るい方や人通りのある方へ逃げましょう。  
また、誘われないためには危険な場所には近づかないことも大切です。  
今まで学習したように、違法薬物は、たった一度使用するだけで、みんなの将来を台無しにしてしまう可能性もある大変危ない物です。  
薬物の問題は意外と身近に潜んでいることもあります。  
自分には関係ないと思わずに、自分だったらどう断るか、を考えておきましょう。  
繰り返しになりますが、薬物は1回でも『ダメ。ゼッタイ』です。  
今日勉強した薬物の恐ろしさを忘れないでください。」

教師 : 「最後にみんなにこの言葉を贈ります。  
危ない誘惑！断る勇気！ S t o p D r u g !」



危ない誘惑！

断る勇氣！

Stop Drug！

(全員その場で立ち上がる)

全員：「危ない誘惑！断る勇氣！Stop Drug！」



教師：「気をつけ、礼」

全員：「ありがとうございました。」  
(チャイムがなる)



(完)

平成28年度薬物乱用防止高校生会議報告書

平成29年3月発行

登録番号(28)349

編集・発行 東京都福祉保健局健康安全部薬務課  
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話 03-5320-4505(ダイヤルイン)

印刷 社会福祉法人東京コロニー  
東京都大田区福祉工場  
〒143-0015 東京都大田区大森西二丁目22番26号  
電話 03-3762-7611(代表)

